

29年1月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成29年 1月1日～ 29年1月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/1月	29/2月	29/3月
入荷動向	国産材	10.0	0.0	0.0
	外材	10.0	△ 20.0	△ 30.0
在庫動向	国産材	0.0	0.0	△ 10.0
	外材	10.0	10.0	0.0

・国産材ラミナの入荷は1月のやや増加が、2月、3月は横ばい。外材は1月のやや増加から2月、3月は減少。

・国産材ラミナの在庫は1月、2月の横ばいが、3月は減少。外材は1月、2月のやや増加が、3月は横ばい。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/1月	29/2月	29/3月
国産材	0.0	10.0	10.0
欧州材	25.0	25.0	25.0
その他	25.0	25.0	25.0

・ラミナの購入価格は外材を中心に総じて強含みで推移。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・買材ヒノキラミナはやや集め難い。製品マーケットが忙しいため協力製材メーカーもラミナよりも製品を作る傾向にあり、入荷は横ばい。米ヒバラミナは米国住宅マーケットの好調により、米国向けに引っ張られて、対日向け数量が減少中、外材入荷はやや減少。

自社製材は既に全力運転、買材ラミナも増えない。一方、製品出荷は極めて好調。国産材ラミナ在庫もやや減少。米ヒバもラミナ購入が増えないにも関わらず、製品出荷は極めて好調。外材ラミナ在庫はヒノキと同様に減少。

(ラミナ価格動向)

・国産材（ヒノキラミナ）は住宅マーケットが好調につき、供給メーカー側からは値上げを求められるが、今月は横ばいで購入できた。2月以降も強含みが続くと思う。また、素材である丸太価格も上昇。米ヒバラミナも米国マーケットが好調で、米ヒバ原料が引っ張られており、値段を出して買入れするため価格は上昇。

29年1月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/1月	29/2月	29/3月
生産動向	国産材	8.3	0.0	△ 8.3
	WW集成管柱	0.0	16.7	0.0
	RW集成平角	16.7	33.3	16.7
	米マツ集成平角	△ 16.7	△ 33.3	△ 33.3
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	25.0	8.3	△ 16.7
	WW集成管柱	0.0	16.7	0.0
	RW集成平角	16.7	33.3	16.7
	米マツ集成平角	△ 16.7	△ 33.3	△ 33.3
	WW集成平角	—	—	—

・国産材構造用集成材の生産は、総じて横ばいで推移。WW集成材管柱も総じて横ばいで推移。

・RW集成平角の生産は3ヵ月連続して増加。米マツ集成平角は3ヵ月連続して減少。

・国産材構造用集成材の出荷は、1月、2月の増加が、3月は減少。WW集成材管柱は総じて横ばいで推移。

・RW集成平角の出荷は3ヵ月連続して増加。米マツ集成平角は3ヵ月連続して減少。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/1月	29/2月	29/3月
スギ集成管柱	12.5	0.0	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	12.5	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	16.7	16.7	16.7
RW集成平角	12.5	12.5	12.5
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	—	—	—

・スギ集成管柱及びヒノキ集成土台の出荷価格は強保合で推移。ヒノキ集成柱及びカラマツ集成土台は3ヵ月連続して横ばい。

・WW集成管柱及びRW集成平角は強含みで推移。米マツ集成平角及び米ヒバ土台角は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・ヒノキ集成材の生産は上限一杯で、工場能力から増産は難しく生産は横ばい。3月は引合い減少するが、受注残を解消するために全力生産を行う。米ヒバ集成材も全く同様の状況でこれ以上は作れない全力生産が続くので横ばい。

ヒノキ集成材は国内住宅マーケットの好調を受けて引合いは極めて強く、受注残も増加中。ただし、住宅メーカー各社が決算期を迎える3月は潮目となり、一転引合い減少すると予想。米ヒバも同様、現在は極めて販売好調だが3月には一転引合い減少。

(構造用集成材の出荷価格動向)

・ヒノキ集成材は国産材の安定供給性をアピールするため値上げ局面ではあるが、戦略的に上げていない。米ヒバ集成材は、北米からの仕入れコストは上昇しているため今後の値上げについて検討中。